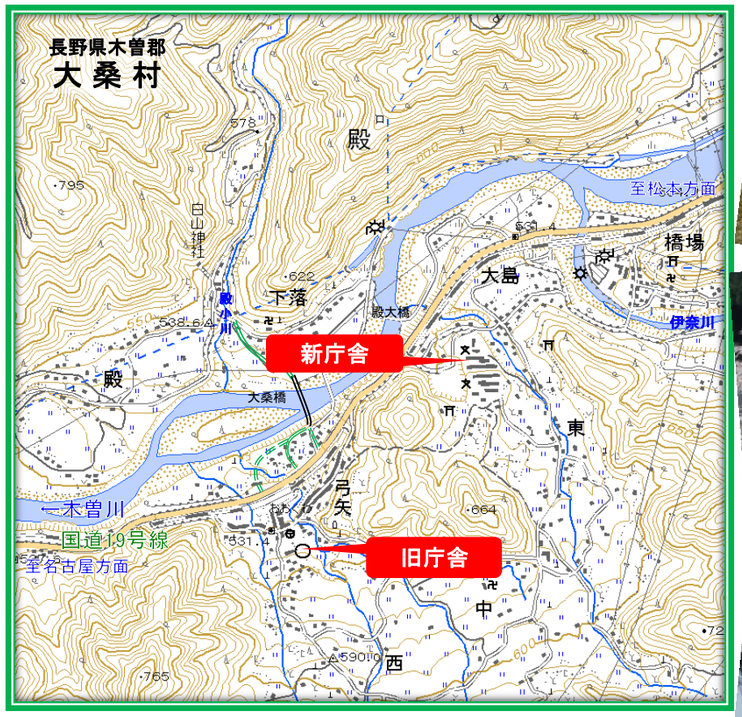
大桑村役場

OKUWA VILLAGE OFFICE

『笑顔と自然に包まれた美しい村
～未来につなぐ「めぐみの郷」～』

新　庁　舎

◆位置図



◆事業経過

年　度	内　容
平成22年度　～ 平成30年度	庁舎建設基金積立
平成26年 4月 ～ 令和 2年11月	庁舎建設準備室設置・庁舎建設庁内検討委員会
平成26年 8月 ～ 令和 4年 2月	庁舎建設検討委員会（委員会30回開催、委員13名）
平成27年 2月	基本構想及び建設地の検討に係る中間報告（検討委員会）
平成27年 3月	庁舎建設基本構想策定、建設地の決定
平成27年 5月 ～ 令和 4年 2月	議会全員協議会、議会庁舎建設特別委員会（17回開催）
平成27年 6月 ～ 令和 2年11月	図書館有識者会議、図書館検討委員会（14回開催）
平成28年 5月	庁舎建設基本計画完成
平成28年 5月 ～ 平成28年 8月	設計プロポーザル　（株）伊藤建築設計事務所に決定
平成29年 3月	庁舎建設基本設計完成
平成29年 9月 ～ 平成31年 3月	資材調達村有林調査、伐採林作業道整備（和村 中尾沢村有林）
平成31年 4月 ～ 令和 2年 3月	庁舎建設実施設計、旧大桑小学校解体、中尾沢村有林伐採開始
令和 2年 8月 ～ 令和 4年 3月	大桑村庁舎建設工事契約、施工 ヤマウラ・吉川・奥田ＪＶに決定
令和 3年 6月 ～ 令和 4年 3月	大桑村庁舎付属棟建設工事契約、施工 （有）細田建築　：　防災倉庫棟、公用車庫２ （株）寺嶋建築　：　備品倉庫棟
令和 4年 4月	大桑村新庁舎竣工式
令和 4年 5月	大桑村役場新庁舎開庁
令和 4年 9月	大桑村図書館開館（予定）

新庁舎竣工にあたって

大桑村長　貴舟　豊

昭和35年（1960年）建設の役場庁舎は経年による老朽化はもとより、耐震基準を満たしていない事や周辺が土砂災害警戒区域に指定された事により、防災拠点としての機能が懸念されるようになりました。更に情報化やバリアフリー対応等、基本機能が時代のニーズに見合っておらず、高齢化や人口減少社会を見据えた行政の効率化や住民サービスの向上、社会情勢の変化に対応した庁舎のあり方が問われる中、新庁舎の建設に備え平成２２年から庁舎建設基金の積み立てを始め、平成２６年１０月に住民代表による庁舎建設検討委員会が組織されました。

様々な機会を捉えて住民の皆さんのご意見を伺いながら、平成２７年３月に基本構想、平成２８年５月に基本計画が完成しました。建設に向けた設計業務は、平成２８年５月に、設計プロポーザル（設計提案、協働方式）により(株)伊藤建築設計事務所の提案が採用され、基本設計、実施設計が進みました。令和２年８月に本体工事の公募型指名競争入札をおこない、ヤマウラ・吉川・奥田特定建設工事共同企業体が落札し、令和２年９月２６日に現場着手しました。本庁舎に隣接する付属棟の建設工事も同時に進み、　本日、竣工を迎えることができました。これも村民の皆様をはじめ、多くの関係各位の温かいご理解と、ご支援のおかげと深く感謝申しあげます。

新庁舎は、分散している行政機能（保健センター、教育委員会）が一元化され関連する手続きが一度に完了するワンストップ窓口とするとともに、自家発電設備を備える等災害発生時の防災拠点としての機能と、公民館、図書館等の様々な機能を備えた複合施設となります。併設の図書館は、文化、交流、地域協働の活動拠点、行政情報の発信基地として、誰もが気軽に訪れる施設として秋に開館します。

本庁舎は、再生可能エネルギーを積極的に活用しています。地中熱エネルギーを利用した輻射熱による冷暖房設備の導入や、太陽光パネル（77.8ｋｗ発電）を設置し使用電力の軽減に努めるなど再生可能エネルギーを積極的に利用し、環境負荷の低減に配慮した庁舎としています。また、本庁舎の内装には、中尾沢村有林を伐採した材を使用しています。スギ材はフローリング、ヒノキ材は壁等の内装材として使用しています。

新庁舎の建設にあたりましては、村の将来像としています『笑顔と自然に包まれた美しい村～未来につなぐ「めぐみの郷」～』を目標に、安心で快適、来庁者の皆様が利用しやすく、大桑村の新たなシンボルとして、将来にわたって村民の皆様に親しまれる施設となるよう、職員一丸となって更なる住民サービスの充実、行政運営の効率化に努めてまいります。

結びに、庁舎建設にあたり、格別のご理解をいただきました近隣住民の皆様、寄贈品をいただいた皆様、建設委員会をはじめ各団体の皆様、そして、高度な技術力を持ち安全な施工にご尽力いただいた設計監理、施工業者の皆様に、深甚なる敬意と、心から感謝申しあげ挨拶とさせていただきます。

令和４年４月２１日

◆施設概要

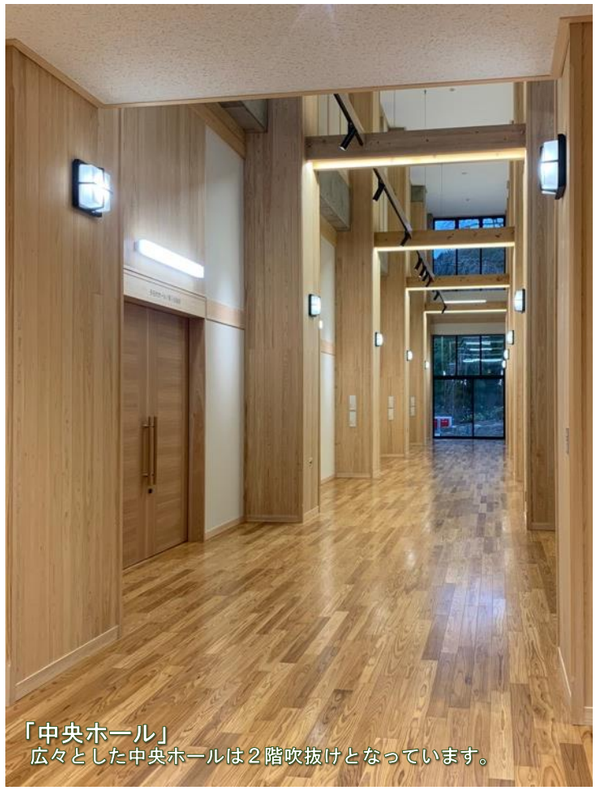
所 在 地　：木曽郡大桑村大字長野880番地1
設計監理　：株式会社伊藤建築設計事務所
施　　工　：庁舎本体：ヤマウラ・吉川・奥田 特定建設工事共同企業体
付 属 棟 ：有限会社細田建築（公用車庫2・防災倉庫）
株式会社寺嶋建築（備品倉庫・ｺﾐｭﾆﾃｨｴﾘｱ内装工事）
地中熱設備工事：株式会社角藤
建物の構造　：鉄筋コンクリート造 （一部鉄骨造）
面　　積　：敷地面積 11,870.42㎡
延床面積 3,612.99㎡（庁舎本体のみ：2,878.34㎡ 車庫・倉庫等：734.65㎡）

建設工事費	本体建設	15億2,400万円
	設計・工事監理	9,469万円
	地中熱設備工事	1億1,495万円
	備品倉庫建設工事	4,989万円
	公用車庫2建設工事	4,797万円
	防災倉庫建設工事	4,110万円
	ｺﾐｭﾆﾃｨｴﾘｱ内装工事	2,310万円
	村有林材加工等委託	5,127万円
	備品購入費	5,016万円
	用地物件補償	617万円
	計	20億3,300万円
財　　源	村　　債	14億4,433万円
	一 般 財 源	5億8,867万円

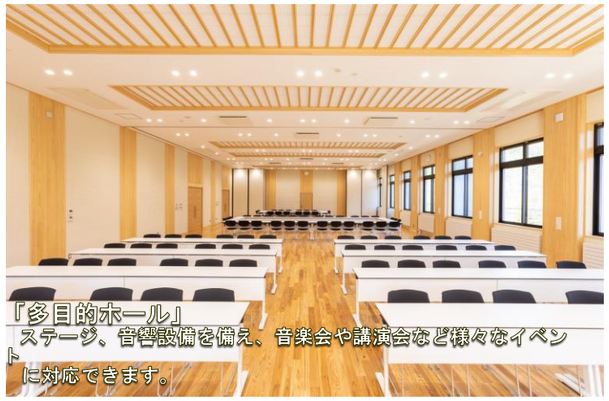
◆庁舎本棟のご紹介

「キッズルーム」
子どもたちが自由に遊べるスペースとして開放します。
大桑産のヒノキの壁材やスギの床材、木製のおもちゃなど、木のぬくもりを肌で感じながら遊べます。

「大桑村図書館」
絵本コーナーもあり、幅広い年齢層の方が利用できます。　令和４年秋に開館します。



「中央ホール」
広々とした中央ホールは２階吹抜けとなっています。



「多目的ホール」
ステージ、音響設備を備え、音楽会や講演会など様々なイベントに対応できます。

「談話コーナー」
どなたでも気軽に利用できる休憩スペースです。
図書館の本を読んだり、誰かと談笑をしたり、自由にくつろげる憩いの場です。

「特別会議室」
普段は会議室として、村議会の議場としても利用します。

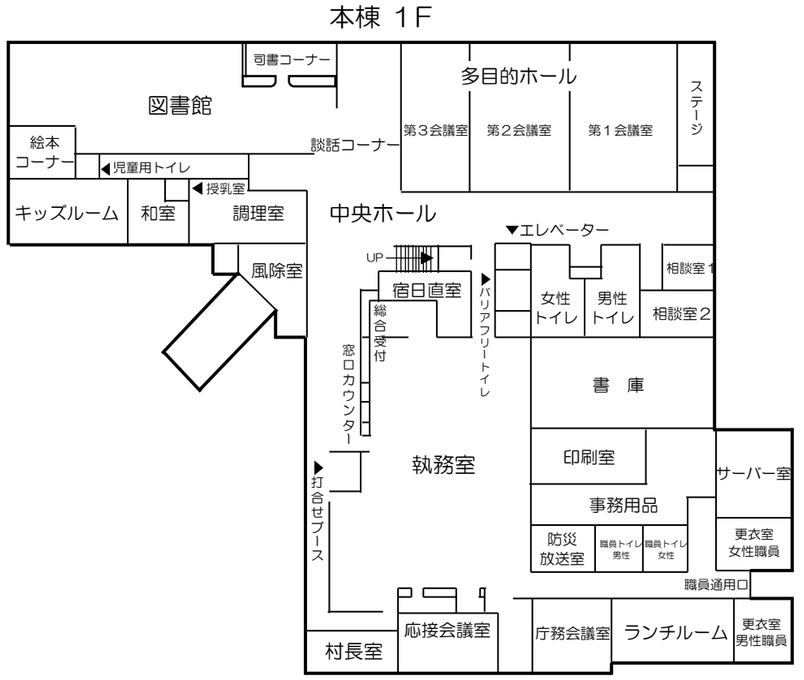
「窓口カウンター」
保健センター、教育委員会を集約し、村内の行政手続きが一括してできる「ワンストップ窓口」となります。

「村長室」
出入口横の壁には旧庁舎村長室に貼られていた“木曽ひのきの脂盃(やにもく)”を移設しました。

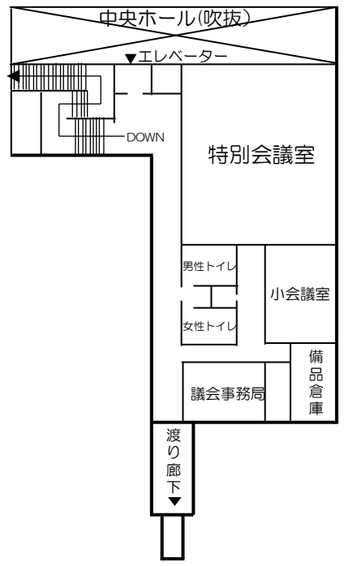
「電気自動車用急速充電器」
昨今の環境問題により、今後の電気自動車の普及を見据

◆庁舎本棟 館内図

本棟 １F



本棟 2F



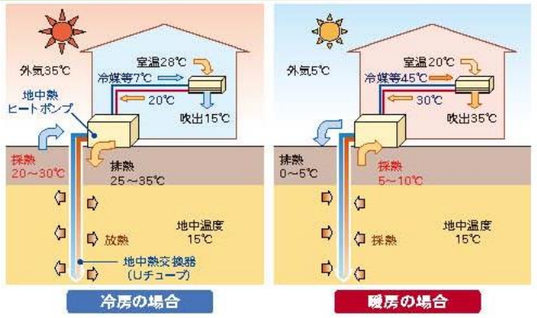
◆再生可能エネルギー活用

～地中熱利用～

執務室、中央ホール、図書館などでは、冷暖房設備に地中熱を利用しています。

地中熱は、天候や環境に左右されない安定した再生可能エネルギーであり、近年、空調などの用途に用いる施設が増えています。

今回導入した地中熱利用設備は、地下７５ｍまで挿入した管の中や建物内の輻射パネルを不凍液が循環しており、地中で得た熱を輻射パネルから放射（冷房の場合は空気中の熱を吸収）することで温度調整をするものです。



地中熱ヒートポンプ

輻射パネル

～太陽光発電～

太陽光パネル

太陽光発電設備は太陽光パネルにあたる光を電気に変換し、発電された電気は新庁舎内で使用します。

２０８枚（出力約78kw）の太陽光パネルを設置し、庁内全体のおよそ３分の１の電力をまかなえる設備となっています。

一般的に電力会社から電気を購入するよりも低コストで環境にやさしい取組みをしています。

◆村有林材活用

内装の木材は、中尾沢村有林（和村地区）のスギ・ヒノキや阿寺国有林から伐採されたヒノキを使用しており、館内で見える部分のほぼすべてに“大桑産”の木材を使用しています。

スギは中央ホールや多目的ホール等のフローリングや役場窓口カウンター、ヒノキは壁の化粧板や天井ルーバー、廊下の腰掛と村長室のフローリングに使用しています。

村有林伐採

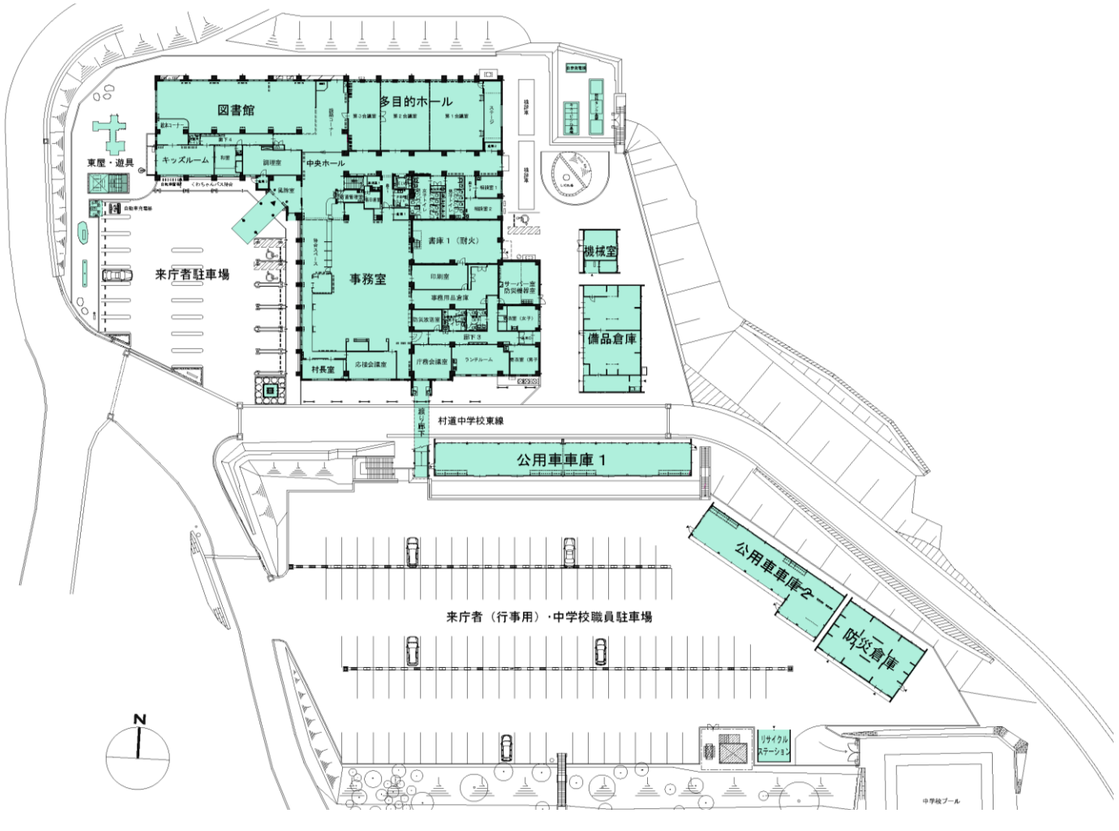
製材の様子

大桑産ひのきの天井ルーバー

◆敷地内施設のご紹介

「公用車庫・防災倉庫」
公用車・マイクロバス用の車庫と、隣には災害用備蓄品や現場で使用する道具用の防災倉庫があります。

「備品倉庫」
各課で所有する備品用の倉庫です。

「リサイクルステーション」
新たにリサイクルステーションを設置しました。

「東屋・遊具」
芝生エリアには子ども向け遊具や、東屋があります。